

令和6年度自己評価結果公表シート

学校法人 進修学園
進修第2幼稚園

1. 進修学園 基本理念

- ① 子どもファーストの開かれた幼稚園として、安全で質の高い教育・保育を提供する。
- ② 専門家としての責任と使命を自覚し、人間性豊かな教諭、保育士をめざす。

2. 本園の教育目標

幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びから学びへとつながるよう配慮し、探索し思考する過程を大切にした教育を目指している。そして、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、教師との信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

- ① のびのび 心も身体ものびのびと、自己肯定感のある子
 - ② きっちり 挨拶・マナー・けじめのある態度ができる子
 - ③ かしこい子 感じる・考える・意欲をもって取り組める子
- 以上をスローガンとし、人として生きる力の基礎を培っている。

3. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

園の教育理念・教育方針のもと、その教育目標に沿った評価項目に従って自己点検・自己評価を実施することにより、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善・教育内容の改善に主体的に取り組んでいくよう目指していきたい。

4. 評価項目の達成及び取り組み状況

評 価 項 目	取 組 み 状 況
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通理解をはかる。	子どもの実態に即した教育課程のあり方を考え、教育要領等の理解を深める為の研修会に参加し、実際の保育の中に具体的にどのように位置づけるかを職員間で話し合っている。
園の状況を踏まえて、中・長期的なビジョンと計画を策定する。	幼稚園に求められる社会的なニーズも変化してきている。こうした背景を踏まえて、本園がこれから長期的にどのような社会ニーズに答える必要があるか、また園の独自性・教育理念をどのように盛り込んでいくか具体的に検討を始めている。
子どもの育ちについて学年全体及び全職員で話し合い共通理解をし、方について、共通理解する。	幼児の発達の姿を捉えるため、日々の子どもの姿について話し合う機会を職員間で持ち、共に意見交換をするなかで、個々の成長につながるようにしている。

おたより等を通して、園の情報を発信していく。	毎月の園だより・学年だより・クラスだより等を通して、幼稚園の情報を発信している。またHPのブログや動画配信により園での様子を発信している。
栽培活動(自園農園)・食育活動	野菜が種から食べ物へと徐々に成長していく過程を観察することを通して、沢山の発見と食べ物を大切にすることの気づき、苦手な野菜にも興味を持つようになる。

5. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育者一人ひとりの個性を保育に活かし、お互いの能力を高めながら取り組むべき課題について、全教職員が共通に理解し、子どもの成長を保護者の方と共有していきたい。本園としての方針を大切に、今後も園全体の質、職員の質の向上につながるよう、職員内での話し合い、共通理解を深めていきたい。また、話し合いの場を多く持つことで、子ども主体の活動に今後も広げられるようにしたい。

6. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安 全 管 理 ・ 災 害 対 策	いつ起こりうるかわからない大地震や災害に備えて、施設面での対応と、教員の意識づけ、並びに危機管理マニュアルの作成を常に見直したい。避難訓練は毎月実施しているが災害時を想定した保護者への引き渡し訓練や不審者対策などこれまで以上に園での対応なども徹底していきたい。
特別支援教育	幼児に対応した個別の指導計画の作成を検討するとともに、保護者、医療・福祉の関係機関との連携を密に取ることを今後も継続していく。また、小学校との連携にも十分に努めたい。
保 育 環 境 ・ 施 設 設 備 の 改 善	園児にとって楽しく、安全に過ごしやすい環境に改善していきたい。 保育室においても遊びコーナーを工夫し、子ども達が興味・関心を持って関わり、考えたり、試したりできる環境作りを継続して行う。
園に対する保 護者の満足度 の把握	保護者の理解はもとより、未就園児の保護者にも興味・関心を持ってもらえるよう、HPの充実を継続していくとともにSNSでの発信も検討していきたい。

7. 学校関係者の評価

昨年度の学校評価委員会において、特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

8. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

